

## 理科教育実習施設に保存されていた棘皮動物門ウニ綱の標本

### SEA-URCHIN SPECIMENS IN MANAZURU MARINE LABORATORY

西 栄二郎

**Abstract.** Specimens of sea-urchin deposited in Manazuru Marine Laboratory are summarized. In total, 9 families, 12 genera, and 12 species were confirmed. Among them three species *Miroscyphus olivaceus* (Döderlein, 1885), *Calveriosoma gracile* (Agassiz, 1881), *Laganum fudsiyama* Döderlein, 1885, were considered to be rare in recent Sagami Bay.

西 栄二郎: 横浜国立大学教育人間科学部附属理科教育実習施設. 〒25-90202神奈川県足柄下郡真鶴町岩61 ☒ enishi@ynu.ac.jp

棘皮動物門ウニ綱は殻と可動性の棘が特徴の一群で、浅海から深海にまで分布する。通常便宜的に放射相称の普通のウニである生形類と、平たい円盤状のカシパン類やブンブク類などの不生形類に分けられる。10科50属300種が世界の海から記録されており、日本近海では8科40属約180種が分布する。

相模湾のウニ綱については、重井 (1986) の相模湾湾海胆類に5科10属30種の記録があり、小田原市郷土文化館 (1979) には小田原近海に14種が分布するとしている。相模湾に隣接する地域においては、池田・倉持 (2001) は三浦半島沿岸 (東京湾口) から10属20種を、重井 (2001) は房総半島から7目45種を報告している。真鶴沿岸でのウニ綱については重井 (1986) と斎藤・鈴木 (1979) に若干の記述がある以外は報告されていない。1950年代から真鶴沿岸で海洋生物調査を行ってきた理科教育実習施設にはウニ類を含む棘皮動物や魚類をはじめとした多くの海洋生物標本が残されている。標本の多くは、作成から40年以上経過し、ラベルが読めない標本や、保存液が蒸発し、すでに使用不可能な標本も多く、一部はすでに処分せざるをえなかった。軟体動物、魚類、棘皮動物については200点を越す標本が実習施設に現在も残っており、魚類や

浅海の底生動物については小田原市郷土文化館 (1979) や斎藤・鈴木 (1979)、蒲生・加藤 (1973) らにリストがある。今回、その中のウニ類の標本を整理する機会をえたので、ここにリストを掲載する。なお、一部の標本は千葉県立中央博物館分館海の博物館に登録・保管されている

リストには個体数、採集年月日と採集方法を列記した。分類体系は重井 (1984, 1986, 1989, 1994, 1997, 2001), Nishiyama (1966, 1968) らに従った。

オウサマウニ目

フクロウニ科

#### 1. イイジマフクロウニ

*Asthenosoma ijimai* Yoshiwara, 1897

赤馬沖, 1957年5月16日 (2個体)

#### 2. アカフクロウニ

*Calveriosoma gracile* (Agassiz, 1881)

真鶴沖, No.030-25 (1個体)

ガンガゼ科

#### 3. ガンガゼ

*Diadema setosum* (Leske, 1778)

実験所下海岸, 1954年8月10日, 蒲生重男,

No.030-5 (2 個体)

ホンウニ目  
サンショウウニ科  
4. コシダカウニ

*Mespilia globulus* (Linnaeus, 1758)

磯崎, 1958年7月, No.030-5 (6 個体)

岩海岸, 1958年8月, No.030-22 (3 個体)

5. ケマリウニ

*Mirosocyphus olivaceus* (Döderlein, 1885)

三石沖, 1961年12月16日, 村岡, No.030-27 (1 個体)

ナガウニ科

6. ナガウニ

*Echinometra mathaei* Blainville, 1825

実験所下海岸, 1955年4月9日, 双葉女子学園, No.030-11 (1 個体)

岩海岸, 1961年4月3日, No.030-15 (1 個体)

タコノマクラ目

カシパン科

7. ヨツアナカシパン

*Peronella japonica* Mortensen, 1948

真鶴沖, No.030-26 (3 個体)

8. フジヤマカシパン

*Laganum fudsiyama* Döderlein, 1885

三ツ石東側沖, 1960年7月6日, No.030-11 (2 個体)

ヨウミヤクカシパン科

9. ハスノハカシパン

*Scaphechinus mirabilis* A. Agassiz, 1863

真鶴沖 (1 個体)

赤沢隊道中沖, 砂底1963年1月18日 村岡  
No.090-18 (3 個体)

スカシカシパン科

10. スカシカシパン

*Astriclypeus manni* Verrill, 1867

真鶴沖, No.030-8 (1 個体)

ブンブク目

ブンブクチャガマ科

11. ブンブクチャガマ

*Schizaster lacumasae* (Linnaeus, 1758)

三ツ石沖, 1960年3月2日, 村岡, No.030-31 (2 個体)

ヒラタブンブク科

12. ネズミブンブク

*Pseudomaretia alta* (Agassiz, 1863)

三ツ石南側, 1969年4月11日, 渡辺, No.030-12 (8 個体)

このリストにない種で, 近年真鶴沿岸で観察・採集されたウニ類は, ムラサキウニ, ヒラタブンブク, オカメブンブク, タコノマクラ, バフンウニである (1999年から2000年にかけての岩沖潜水調査と真鶴沿岸潮間帯生物調査による: 西, 未発表). これらすべてを合わせると, 5科17種となる. 現在の相模湾に産するウニ類に関しての資料は少なく, 今後も標本を公共の博物館に残し, また分布記録を積み重ねていく必要があると考えられる.

### 参考文献

- 蒲生重男・加藤 直. 1973. 真鶴附近の魚類. 横浜国立大学教育学部理科紀要 20, 69-84.
- 池田等・倉持卓司. 2001. 三浦半島・南下浦 (東京湾口) 産ウニ類. 神奈川自然誌資料 22, 65-68.
- Nishiyama, S. 1966. The Echinoid fauna from Japan and adjacent regions. part I. *Palaeontological Society of Japan, Special Papers* No. 11, 277, plates 1-18.
- Nishiyama, S. 1968. The Echinoid fauna from Japan and adjacent regions. part II. *Palaeontological Society of Japan, Special Papers* No. 13, 1-491, plates 19-30.
- 小田原市郷土文化館. 1979. 相模湾の生物 (小田原周辺を中心) 小田原市郷土文化会館, 小田原, 18pp.
- 斎藤 実・鈴木 博. 1979. 新岬海岸の動物 I. 横浜国立大学教育学部理科紀要 20, 31-48

重井 睦夫 1984. 日本産ウニ類の分類小史. *海洋と生物* 34, 322-329.

重井 睦夫 1986. 相模湾産海胆類. 宮内庁生物学御研究所編, 丸善, 東京.

Shigci, M. 1989. Systematic studies on the echinoids of Japan and an approach to the marine biogeography. In. "Current Aspects of Biogeography in West Pacific and East Asian Regions", compiled by H. Oba, I. Hayami & K. Mochizuki. *The University Museum, The University*

*of Tokyo, Nature and Culture* 1, 57-78.

重井 睦夫 1994. ウニ綱. 日本海岸動物図鑑Ⅱ. 西村三郎編, 保育社, 東京.

重井 睦夫 1997. ウニ綱. 日本動物大百科. 7. 無脊椎動物, 176-177, 平凡社, 東京

重井 睦夫 2001. ウニ綱. 千葉県動物2. 海の動物. 千葉県教育委員会編, 千葉県史料研究財団, 千葉市.